

# 金木小学校支援地域本部

～地域の力で子育てのための環境整備～



五所川原市金木小学校支援地域本部 担当者：太田久美子  
金木小学校 コーディネーター：田中 昇・工藤 勝栄・成田 勝義・原田久美子

西北地区

五所川原市

## 学校や地域の概要

金木小学校は、昭和52年に大東ヶ丘分校を閉校して統合、さらに昭和55年に蒔田小学校、平成17年に川倉小学校と統合し学区が広いという特長があります。そのため保護者の連携は弱く、参観日懇談会の出席や環境整備等のPTA奉仕活動への参加は年々減少傾向にあります。昭和55年に建てられた校舎の老朽化が進んでいて修繕が必要なこと、運動部4、文化部2と多岐にわたる部が活動しているのですが、教員だけでは対応できない部があることなどが課題であり、地域の支援を必要としています。

## わが校のボランティア活動

昨年度より学校支援地域本部事業に取り組みましたが、前項の課題により長年手つかずになっている部分の環境整備と一部の教員による指導が難しい部活動に、地域の力を借りしようとボランティアを募っています。

今年度は9月末現在で、延べ人数で環境整備に75人、部活動に143人のボランティアが活動しました。環境整備はコーディネーターの人脈により地域住民が多く、部活動は保護者が支えています。

また、環境整備はコーディネーターの計画により専門的な技能を持った活動をし、部活動は子どもたちの見守りを主に受け持って活動しています。

## コーディネートの実際

環境整備のコーディネーターは2名で行っています。校舎の外部（樹木や遊具などの安全管理や整備）と内部（修繕関係）等の施設・設備をそれぞれの専門知識を生かして、活動内容に応じてボランティアを組織しています。また、コーディネーター自身がその専門性を発揮し直接活動することもあります。

部活動のコーディネーターは1名で、吹奏楽部を支援しています。コーディネーター自身が専門的な知識があり、今年来たばかりの顧問教員にアドバイスをしたり、ボランティアの活動を見守ったりしています。

## 担当者・コーディネーターから一言

コーディネーターの専門性や人脈により、学校にとってこの支援事業がとても大きな力になっています。環境整備がどんどん進み、子どもたちも安心して部活動に取り組んでいて、

とても助かっています。

## わが校の主な活動

### 【1】環境整備（校舎外）

- ・正門にある鉄製の門柱が腐食し、塗りがはがれていたのを塗装修繕しました。
- ・昨年度、腐食により伐採した桜の代わりに苗木を植栽しました。
- ・百周年事業で立てた石碑（太宰治の文言が書かれている）の土台が老朽化し危険になったので、補修し安全のため柵を作りました。
- ・老朽化した遊具を撤去しました。
- ・風で折れて危険になった樹木の高枝を伐採しました。
- ・使用できなくなっていた走り幅跳びの砂場を移設し、再生しました。
- ・粗大ゴミ等の分別・搬出をしました。



### 【2】環境整備（校舎内）

- ・特別教室の腐食した棚の修繕をしました。
- ・ゴミ保管箱の作成をしました。
- ・体育館の扉、鍵等の修繕をしました。
- ・玄関及び廊下の壁のペンキ塗りをしました。



### 【3】吹奏楽部活動支援

- ・日常の部活動で、子どもたちの見守り。楽器のグループに担当教員が付けない際にそのグループを交代で見守っています。
- ・コンクール参加の児童の送迎および楽器の運搬をしました。
- ・夏祭り（ねぷた運行）支援をしました。



## 得られた成果

- ① 環境整備では、長年手つかずだった破損箇所や汚れがひどくなっている箇所などの修繕・補修を行うことができました。また、腐食したり病気になって危険な樹木の伐採や不要品の整理ができました。
- ② 部活動支援では、コーディネーターやボランティアの支援により、一人一人の活動に目が届き、吹奏楽部の活動を充実させることができました。
- ③ その他に、本校の前庭には太宰治に因んだ記念碑があり、観光客が訪れます。その通路の桜並木の整備や門柱の補修ができました。

## 今後の課題と展望

環境整備は、本来であればしかるべき予算のもと公的機関が行うのが望ましいとは考えます。学校支援地域本部事業により、ボランティアが環境整備に支援してくれましたが、すべてに対応できたわけではありません。今後も継続して取り組みたいと考えています。



西北地区

五所川原市

# 「子どもたちのためならば」

～学習、部活動支援活動を通して～



五所川原市五三中学区地域本部 担当者：川越 光芳／五所川原第三中学校 コーディネーター：松橋 弘幸

西北地区

五所川原市

## 学校や地域の概要

本校は昭和47年4月1日五所川原第三中学校として開校し、現在『たくましく心豊かに生きる生徒』を教育目標に学級数17、生徒数約500名の大規模校です。住宅街に位置し、団地も多く点在しています。ここ数年、生徒指導上の問題が多発し、行事や部活動を通して人間的な成長を図ってきました。その結果、各種大会で好成績を残し、学校も落ち着きを取り戻してきています。PTA活動も「学校へ行こう」をスローガンに積極的な協力支援体制が整いつつあります。

## わが校のボランティア活動

### 1 学習指導への支援

子どもの基礎的・基本的学力の定着を目的にiDOMテスト（漢字・英単語）の採点・集計活動を実施しています。また、高校生によるチューター（個人教授）も実施しています。

### 2 部活動や生徒指導への支援

バレーボール部、剣道部の指導、問題を抱えた子どもの援助や校内外の見回りの活動にあたっています。

## コーディネートの実際

### 1 PTAとの連携を重視した活動

PTA活動と学校支援活動をいかに連動させるか。それが今年度のPTAにおける学校支援委員会の立ち上げでした。この試みは企画・運営共スムーズに進んでおり、大成功であると思っています。

### 2 経験を生かした生徒指導支援

若い先生方の一部には問題を抱えた子どもの指導に悩むことがあります。その子どもの指導にあたったり、先生方の相談に応じたりしています。

## 担当者・コーディネーターから一言

学校と家庭、地域社会との連携強化が言われてきました。そのことが言葉から行動となって現出したのが学校支援体制であると考えます。多忙な教師への一助となっていると考えますし、その教師の余裕が子どもへの指導の充実につながってくれればと期待しています。

## わが校の主な活動

### 【1】学習指導への支援

今年度PTAの組織の一つに「学習支援委員会」を位置付け、iDOMテストの採点・集計作業の補助への協力をお願いしました。延べ、81名の方々がボランティア登録していただきました。生徒数の多い学校なので、採点・集計は大変な作業です。午後4時半の開始前にはもう半数のボランティアの方が図書室に集まって、赤ペンを持ち作業が始まっています。年5回、毎回約20名のボランティアの方々にお出でいただいている。「私終わったよ。まだ終わっていない人は！」と声をかけ、他を手伝うなど協力心旺盛で予定の時間よりも早く終わることができます。ボランティアの皆さんからも「子どもたちのためならば」という言葉を聞くことが多いです。子どもたちの成長につながってくれればとの思いからくる真摯な姿が眩く感じられます。



西北地区

五所川原市

### 【2】部活動への支援

ここ数年、地域のボランティア、保護者の方が放課後バレー部の指導にあたっていて、2時間体育館にコーチと生徒の声が響きわたっています。女子は各種大会で優勝、2年連続中体連東北大会出場を果たしています。



## 得られた成果

学習支援活動がなされていることで、学校に新しい風が吹いています。「地域社会の風」といえるでしょう。その風の下、教師は地域の方々と共に「子どもを成長させよう」という意識を強くしています。

子どもたちは地域の多くの人たちとの交わりを深めることによって学習の範囲を広め、深め、そして視野を大きくしています。地域の人たちもまた「学校に来やすくなった」との声を聞くことが多くなりました。共に「子どもを育てる」意識が更に広まってくれれば嬉しいと思っています。

## 今後の課題と展望

- 1 今年度はPTA活動の一部と連動させることで大いに成果があがりましたが、他のPTA活動にもつなげることができるかどうか、会員の声を聞きながら共に考えていこうと考えています。
- 2 PTA組織以外の人達の協力を更に広げて行きたい。広報の在り方、制度の在り方、運営の在り方を見つめ直していくことを考えています。

こども  
地域の宝をみんなで守る

## 下校安全「みまもり隊」



五所川原市五所川原第三中学校区学校支援地域本部 担当者：外崎 晴弘／三輪小学校 コーディネーター：佐々木百香子

西北地区

五所川原市

### 学校や地域の概要

三輪小学校は、五所川原市の中心部より青森方面へ約5Km、国道101号線沿いに位置している。平成13年4月に梅泉小、七ツ館小、栄小の一部を統合して各学年2学級の全校12学級でスタートしました。現在は児童数306名で、年々減少してきています。児童は明るく元気で、保護者も学校教育にとても熱心で協力的です。現在は、挨拶・早起き・安全・ハートフルの頭文字を取った「あはあは生活」をスローガンに、全校で取り組んでいます。

### わが校のボランティア活動

ボランティアの活動として、6年前から、月2回、昼休みにやっている「読み聞かせ」の他に、今年度から毎週月曜日の朝読書の時間に、「朝の読み聞かせ」を実施しています。その他にも家庭科や校外学習等の学習支援。学年・学級通信の印刷や、各行事等で使う小道具の作成。畠の畝作りや、収穫の補助などなど。学校や先生方のニーズに応えながら活動しています。

中でも、下校を中心とした、「みまもり隊」は4年前からの活動で、今年度から新たに、青色回転灯を装着したパトロールカーも登場し、より一層児童たちの安全のために活動しています。

### コーディネートの実際

学校や担当教員の要望を重視し、その場、その時に合った人材や、物等を準備、またはコーディネートしています。ボランティアの多くは保護者が中心となっています。

### 担当者・コーディネーターから一言

コーディネーターの佐々木さんから、どんどん学校支援ボランティアの輪が広がり、子どもたちの学習意欲や安全・安心の向上につながっています。

これからも、学校・保護者・地域全体で子どもを見守り、育てていきたいです。

## わが校の主な活動

我が校の主な活動の一つとして下校安全「みまもり隊」があります。この活動は主に、保護者が中心となり児童の下校時刻に合わせて、「学校まで迎えに来る。」「自宅近くまで迎えに来る。」「スクールバス停留場まで迎えに来る。」といった3形態で実施し、ボランティアが都合のつく時間に合わせて行っています。

今年度から新たに、五所川原警察署より、「自主防犯組織・防犯活動団体」の委嘱を受け、青色回転灯を装着した車でのパトロールも実施しています。学区全体の安全をより強化する活動として、高く評価できるものであると考えています。

しかし、活動当初は、「過保護すぎる」というような批判的意見もあり、この活動の在り方に疑問視する声もありました。

けれども、活動をしていく中で、地域の方々から「児童たちから声をかけてくれるようになった。」「元気な挨拶が気持ち良い。」等のうれしい声をいただいて、この活動を通して、子どもたちの安心感が伝わってくるように思えます。



西北地区

五所川原市

## 得られた成果

職員会議等では見えない放課後の地域の様子を知ることができ、それを生かした指導をすることにより、児童たちはさらに安全を意識しながら生活することができます。地域に育てられているという安心感も伺えます。子どもと一緒に下校することにより、子どもの目線による通学路の危険箇所や死角がわかり、学校と共に理解しながらその対策を講じができるようになったこと、自分の子ども以外の沢山の子どもたちとふれあいが生まれたこと、あまり話をしたことのない親同士のコミュニケーションが深まったことなどが挙げられます。

## 今後の課題と展望

現在は保護者が主に活動しているが、今後は地域の方々にも協力を促し、学校と地域がうまく連携して活動していく体制づくりを目指したいと考えています。

また、将来この子たちが大人になったときに、地域を愛し、間違ったことをきちんと注意できるような、大人になってくれるように願っています。

# 子どもたちの笑顔とがんばりのために

～学習支援ボランティア活動を通して～



五所川原市五三中学区学校支援地域本部 担当者：成田 秀一／栄小学校 コーディネーター：葛西 彩子

西北地区

五所川原市

## 学校や地域の概要

栄小学校は、五所川原市の南西に位置し、国道101号線と339号線に挟まれた所に建てられています。学校規模は、全校児童600人で西北五地区では一番の大規模校です。地域としては、県営・市営団地があり全校児童の3～4割がこの団地から通ってきます。また、新興住宅地もあり、新しい家が建ち並ぶ地域もあります。古くからこの地域に住む人、新しく住み始める人があるため、地域の交流が盛んな地区と希薄な地区とがあります。

## わが校のボランティア活動

4月、新年度スタートと同時にボランティア活動も始まりました。入学間もない1年生への下校引率支援や給食配膳の手伝い、2年生には運動会の表現運動の指導や国語の音読学習支援、校外学習の引率支援、6年生は家庭科、ミシン学習の支援などです。また、図書室の整理ということで、新しい本へのカバーがけを行いました。それから、全校児童への絵本の読み聞かせは、低学年・中学年・高学年と分け、学期ごとにそれぞれ1回、年間を通して行っています。このように多種多様なボランティア活動が休むことなく行われ、ボランティア会員の皆さんと子どもたちや先生方との交流が持たれています。

## コーディネートの実際

本校には、支援室（ボランティアルーム）があります。学校の中心に部屋を設けていただいたことで、子どもたちや先生方の顔が見え、日々の様子をうかがうことができます。子どもたちは休み時間によく遊びに来てくれます。ボランティアの方々もそうです。活動後のお茶の時間はホッと息抜きの語らいのひとときです。そこから、色々なアイディアが…。それから、ボランティア会員の3分の1が卒業生の保護者の方です。支援依頼や協力の有無を携帯メールで送ることで、より早くお知らせが可能になりました。携帯メール大活躍です。

## 担当者・コーディネーターから一言

子どもたちの笑顔がいいですね。地域の大人として、子どもたちに手助けをしたい。子どもたちとの触れ合いは、自分の生きがい！ボランティアの方々の温かい声。私自身、ボランティアの方々に支えられてのコーディネーターです。

## わが校の主な活動

学校支援ボランティアの学校における重要性を、十分に先生方が理解を示していただいたことで、多くの支援が形になりました。今回は2年生の先生からの支援依頼を紹介します。様々な依頼の中から「国語の音読の聞き取り」という新しい学習支援です。2年生の人数は100名、3クラスあります。教室前にあるスペースを利用し、3クラス一緒に計9名のボランティアの方々が子供たち一人ひとりの音読を聞いてあげるという学習支援です。一度も間違わずにゆっくり大きな声で音読ができたら合格シールをもらえる内容です。子供たちと接するにあたり、お願いしたことは、とにかく誉めてあげる、がんばったねと声をかけてあげることでした。1回で合格できなかった子には、例えば声は小さかったけれど、ゆっくり丁寧に読んでいてよかったです！と誉めてあげる。誉めてもらったと思う気持ちが、がんばる力になり、誰ひとりあきらめることなく合格シールをもらいました。



いつもの教室や先生とは違ったボランティアのお母さんたちに聞いてもらう緊張感と、全員が声をかけてもらった公平さは、子供たちの学習意欲を更に高めるきっかけになってくれたと思います。

次回は「九九」の聞き取り支援があります。子どもたちの頑張りや笑顔が見られることを今から心待ちにしています。

## 得られた成果

音読支援では9名のボランティアの方と先生3名、計12名で授業をしたことで、子どもたち一人ひとりと向き合う時間がゆっくりと流れました。音読のアドバイスも、子どもたちに納得のいく言葉で伝えることで、やる気が生まれたように思います。いつも慌ただしく時間が足りない先生方も、ボランティアの方に、元気よく挨拶をしてくれました。連携のスタートです。また、ドキドキしながら順番を待つ子どもたちを見て、新たな発見もありました。保護者の皆さんや地域の皆さんが積極的に支援活動に参加し、子どもたちを見守り、先生方と一緒に支え合うことが、子どもたちの心の成長につながるような気がしています。

## 今後の課題と展望

この事業に参加する3年前から本校独自のボランティア活動を行っていたので、スムーズに取り組むことができました。続けてボランティア会員として登録をしてくださる方も多く、理解の深さに感謝しています。多くの支援依頼がありますが、今後も無理のない支援活動を続けていきたいと思います。

# 保護者・地域との『共に感』を育むために

～学習支援ボランティアの取組を通して～



五所川原市南地区学校支援地域本部 担当者：若松 幹夫／南小学校 コーディネーター：井上 守

西北地区

五所川原市

## 学校や地域の概要

- ・南小学校は、五所川原市中心街に位置する、児童数347名、知的・情緒の特別支援学級2つを含む14学級の中規校です。
- ・キャッチフレーズ「力いっぱい がんばろう」「共に学び、共に育ち、そして、共に楽しく」のもと、学校と家庭、地域が「共に」手を取り合い連携を進めています。
- ・保護者との連携を更に強化するため、学習支援ボランティアについては、学年、学級で年1回以上の取組を推進しています。

## わが校のボランティア活動

- ・学習支援ボランティア推進のキーワードである「無理なく」「継続して」「共に子育て（共に感）」を大切にして
  - 夏休み・冬休み勉強会での指導補助等
  - 総合的な学習の時間（立佞武多囃子の指導支援）  
校外学習（生活科の学習支援等）での学習支援
  - 図書ボランティアによる図書整備や読み聞かせ
  - 五所川原甚句保存会による踊りの講習
  - 野球部への支援活動等を行っています。

## コーディネートの実際

ボランティア活動を行う際には、

- ・コーディネーターが中心となり、学習支援ボランティアを募集します。
- ・事前の活動として、ボランティアの方々との打ち合わせを行います。（児童全体を見るという観点で、守秘義務のこと等）
- ・活動終了後、反省会を行います。ボランティアの方々からの感想発表の後、コーディネーターが総括をし活動のまとめを行っています。

## 担当者・コーディネーターから一言

南小学校では、以前から保護者によるボランティア活動が盛んに行われてきています。今後も地域の方々がボランティア活動に積極的に参加していく工夫を考えていきたいと思います。

## わが校の主な活動

### ◇夏休み勉強会について

「長期休業中、学習支援ボランティアの協力を得ながら、宿題の丸つけや学習の分からぬ問題の指導等を行い、学習への意欲付けや家庭学習の習慣化を図ること」「学校に关心を持ち、学校の教育活動を支援してくれる地域の人材を増やすこと」を目的に、夏休み中2日間、勉強会を開催しました。

ボランティアの募集は、コーディネーターを中心に行い、今回は、2日間で延べ37名の方のご協力をいただきました。

子どもたちの参加は2日間で延べ307名でした。あらかじめ準備していた机や椅子がなくなるほどでした。学習内容は夏休みのドリル、一人勉強などの課題の他、家で使っている問題集、学校で用意したプリント等様々でしたが、丸つけや簡単な学習支援はボランティアの皆さん、個別指導は先生方というように役割を分担することで、子どもたちも充実した時間を過ごしていたようです。



### 【勉強会に参加した子どもたち、ボランティアの方々の感想】

#### 子どもの感想

- ・ボランティアの人がヒントをくれたり、先生のように教えてくれたことが嬉しかった。みんなとやることでいい気分転換になった。

#### ボランティアの方々の感想「引き受けた理由」

- ・子どもと触れ合うことが好き。少しでもお手伝いをしたい。学校・児童・父母の和ができる良いことだと思うので引き受けた。
- ・教えてあげて分かった時の子どもの嬉しそうな顔が印象的だった。他の子にかかわることで、自分の子への接し方も振り返ることができる。

## 得られた成果

- ・共に教えることで、保護者にも協力し合って子どもたちを育てて行こうという意識が芽生えてきました。
- ・子どもは、ボランティアにも認められたという意識から、学習意欲の向上が見られました。
- ・担任と共に子どもを育てたいという気持ちから、夏休み中、学級独自の学習会に、進んでボランティアを引き受ける保護者が現れました。
- ・地域の人たちの学校に寄せる思いや考えなどを知ることで、教師の視野が広がりました。

## 今後の課題と展望

指導に対して不安を持つ保護者への対応やボランティア登録制の検討に努めたいと思います。また、保護者・地域の方々に「共に感」を持ってもらうためにも、普段からの関係づくりと情報発信に努め、これまでのボランティア活動の工夫・改善を進めたいと思います。



西北地区

五所川原市

# より良い学習環境づくりをめざして



五所川原市南地区学校支援地域本部 担当者：間山 弘海／中央小学校 コーディネーター：奥谷 梢

西北地区

五所川原市

## 学校や地域の概要

閑静な住宅街である松島団地の中心部、五所川原第一中学校と隣接した位置に中央小学校があります。しかし、近年は周辺の宅地開発が進むと共に、近くに出来たエルムの街等の影響もあって、交通安全面での配慮が必要となってきています。

本校は、今年で創立39周年を迎えます。現在の在籍児童数は452名。手狭な校舎は老朽化も著しく、常時どこかの補修工事が入っている状態であり、子どもたちの学習環境は必ずしも良好とは言えない現状です。

## わが校のボランティア活動

保護者や地域住民によるボランティアの手を借りながら、子どもたちにとってより良い学習環境を作り上げるという目的のもと、以下の活動を実施しています。

- ① 図書ボランティア…図書館の整理、蔵書の補修、貸出・返却の手伝い
- ② 下校見守り活動…通学路の中で、危険なポイントでの誘導・安全指導
- ③ 側溝補修ボランティア…校舎周囲の側溝の蓋を作つて、腐朽したものと交換
- ④ WC清掃ボランティア…配管の老朽化で悪臭のひどいトイレを徹底清掃
- ⑤ ペンキ塗ボランティア…校内の棚やトイレの壁を明るい色に塗装

## コーディネートの実際

- ・ボランティア便りを発行しました。内容は活動の紹介やボランティア募集のために活用しました。紙面は、誰でも読みやすい紙面を心がけています。ボランティア活動は休日が中心になるため、子どもの預け先がない参加者に配慮して保育付きにするなどの工夫をしています。
- ・通年のボランティア活動としては図書と下校見守りがあります。登録人数は多くはありませんが、熱意のある方々なので、こちらの要望を大まかに伝える外は、各自に任せようとしています。

## 担当者・コーディネーターから一言

事業を実施して1年目ということもあり、ボランティアを周知させることに重点を置いています。参加人数は、まだ多いとは言えませんが、やる気のある方々ばかりなので大変助かります。

ています。

## わが校の主な活動

### ◇学校図書館の環境整備

今年度のボランティア活動の中で当初から力を入れてきたのが学校図書館の環境整備作業です。

中央小学校では、以前から読書活動に力を入れており、子どもたちも本好きの子が多くみられます。そのため本の消耗も激しく、児童の図書委員だけでは補修が追いついていきませんでした。

また、在籍児童数の割に手狭な図書室であるため、本棚や本の配列を工夫してより有効に活用することも重要な課題でした。

そこで、ボランティア便りなどで現状を訴え、呼びかけに応じて参加してくれたボランティアと共に、本の補修（常時継続中）と本棚の配置換えを行いました。

さらに市立図書館の司書の方にも応援を求め、本の配列方法の改善にも目を向けています。

そのほか、平日や長期休業中の本の貸し出し・返却の受付もボランティアの方々の協力を得ています。



西北地区

五所川原市

## 得られた成果

これまで、気にはなっていても職員の手が足りずに出来なかったことや、予算的な面でどうにもならなかった懸案事項の幾つかを解決することができました。

また、学校支援ボランティアが入ってくれたことで、教師と子どもたちが向き合う時間の確保にもつながっています。

ボランティア活動が日常化することで、子どもたちも教師だけでなく、他の保護者・地域の方々とも親しく接したり、大人からの注意を素直に聞けるようになってきました。

## 今後の課題と展望

通年で活動しているのは、図書と下校見守りの2つです。いずれも平日日中が活動時間であることから、参加人数が限られてしまい、これが1つの課題となっています。今後は、町内会組織を活用するなどして、より広くボランティアへの参加を呼びかけていきたいと考えています。

# 学ぶ楽しさを子どもたちへ

～地域人材の活用と交流を通して～



五所川原市南地区学校支援地域本部 担当者：三和 雅子／沖飯詰小学校 コーディネーター：徳田千鶴子・松澤恵美子

西北地区

五所川原市

## 学校や地域の概要

市街地に近く水田に囲まれた田園地帯に位置する沖飯詰小学校は、創立132年の歴史を刻み多くの人材を輩出しています。地域住民からの学校教育活動に対する関心は高く、保護者も含め理解があり協力的です。文集作成等広報活動に積極的に取り組み、大正の時代から良き伝統と歴史を引き継ぎ記録に残しています。ただ、近年は少子化傾向により年々児童数が減少し二つの複式学級が発生し、校舎の老朽化も進んでいることから統廃合の動きが出ています。

## わが校のボランティア活動

複式学級発生に伴い教員数も減り、複式の学級担任は同じ教室で異学年児童の授業を行っています。このような学習環境においては児童一人一人の学習内容定着のための支援体制が求められます。そこで、今年度より学校支援地域本部事業に取り組み、コーディネーターの働きかけによる学習活動の効率化を図りました。

- ① 家庭科実習学習への支援…保護者や祖母による運針補助
- ② 版画制作に関わる支援…地域人材依頼による実技基本指導
- ③ 校外学習実施時への支援…保護者や祖父母による歩行安全確保補助
- ④ コーディネーターの支援…書写指導、図書整備、その他諸活動補助

## コーディネートの実際

2名のコーディネーターが配置され、主に学校や複式学級担任の要望に応え円滑な学校支援活動を行っています。

児童一人一人が技能習得を要する教科においては、協力員募集案内の配布や声掛けによりその人員を確保しています。

また、コーディネーター自身の特技得意分野である書写では、直接指導をお願いすることで、子どもたちと親しく関わり技能向上につなげています。

併せて子どもたちが利用しやすい図書環境と蔵書データの整理も行っています。

## 担当者・コーディネーターから一言

子どもたちが楽しく活動していることに喜びを感じます。子どもたちの笑顔からパワーをいただいている。今後も地域ボランティアやゲストティーチャーのコーディネートを通して学校への支援をさらに推し進めていきたいと考えています。

## わが校の主な活動

### 【1】学習支援

- ・家庭科実習支援



- ・書写指導



- ・版画指導（藤田さんは元先生）



西北地区

五所川原市

### 【2】「安全マップ」作成のための学区探検安全支援

- ・学区内危険箇所確認



- ・「安全マップ」完成



### 【3】図書環境整備支援

- ・書籍分類（シール貼り）



- ・利用しやすくなった図書室



## 得られた成果

- ① 技能教科である家庭科では、ボランティアによる丁寧な支援により楽しく針の扱いを身につけ、予定時数内で満足のいく作品を仕上げることができました。
- ② 絵画や書道等その道に長けた人材との交流は、新鮮であり、興味関心を持って作品作りに取り組むきっかけを作ることができました。
- ③ 安全な校外学習の実施は、児童の見聞をより広く確かなものにしました。
- ④ 念願であった図書整備が進んだことで、本校独自の寄贈図書による「葛西文庫」と一般図書との区別がはっきりし、活用しやすくなりました。

## 今後の課題と展望

担任教師が異学年の間を行ったり来たりしながら学ぶ複式では、落ち着いた学びへの不安があります。今年度はボランティアによるきめ細かな支援で楽しく技能習得はできたものの、知識習得の面では複式学級の在り方が課題であり、今後より確かな学びのための指導法について取り組む必要があります。

# 絵本大好き！

～本好きの子どもたち…集まれー!! 読み聞かせサークル～



深浦町学校支援地域本部 担当者：竹田 裕／修道小学校 コーディネーター：世永恵美子

西北地区

深浦町

## 学校や地域の概要

修道小学校は職員数16名、全校児童150名で、部活動がとても盛んです。

本校学区、関・北金ヶ沢地区の前沖には対馬暖流が流れ、古くから日本海沿岸有数の漁場として栄えてきましたが、近年の不漁や漁価低迷、燃油高騰等の影響で、漁業の不振が続いているです。

また、景勝地千畳敷とかぶと岩、日本一の大きさを誇る大銀杏、安藤水軍ゆかりの古碑群等があり、夏場を中心に観光客でにぎわう地域です。

## わが校のボランティア活動

読書を通して心豊かで思いやりのある子どもたちが増えるように、年間8回、本の読み聞かせのボランティアを行っています。

また、このほかにも、

家庭科…調理・裁縫実習での指導助手

生活科…昔の遊びの講師、カレーライス・おやつ作りの指導助手

体育科…親子スキー教室の講師

総合…こぎん刺しの講師、パソコン操作の指導助手

などを行っています。

## コーディネートの実際

読み聞かせサークルのメンバーとの打ち合わせを密にし、子どもたちにバランスよくいろいろな本を紹介できるように、そして本がダブらないように、活動記録を残しています。また、その季節や行事にあったお話や絵本の提供をお願いしています。

読み聞かせ以外の実習補助等の活動では、急を要する要請には、読み聞かせサークルの機動力を活用して対応しています。また、時間的に余裕がある場合には、広くボランティアを募っています。

## 担当者・コーディネーターから一言

- ・読み聞かせサークルの方々が、急な要請に対しても、いろいろなボランティアの仕事を引き受け下さるので、本当に助かっています。

- ・学校支援ボランティア養成講座を開催して、ボランティアの輪を広げていきたいと考えています。

## わが校の主な活動

### 【1】読み聞かせボランティア

- ・読み聞かせサークルの活動は6年前から行われており、メンバーは現役PTA会員と元会員の混成となっています。
- ・読み聞かせ終了後は、反省会を行ったり、練習会を開いたり、手作りの絵本を作成するなど、大変熱心に活動しています。
- ・読み聞かせサークルのメンバーが、本校のボランティア活動の核となっています。



### 【2】パソコン指導ボランティア

- ・本校のパソコン室には、児童用が20台設置されていますが、教師一人では手が回らないため、パソコンを得意とするお父さん、お母さんの力を借りています。
- ・深浦町主催パソコン教室の講師など、パソコン操作のスキルの高いボランティアもいます。



### 【3】調理・裁縫指導ボランティア（タイトル横写真）

- ・生活科で栽培した芋類を使った料理やおやつ作り、家庭科の調理やミシンがけの実習では、ボランティアのお母さん方のおかげで安心して活動ができました。

## 得られた成果

- ・読み聞かせのボランティアのおかげで、ジャンルを問わず本を手にする子どもたちが増えました。
- ・実習補助のボランティアのおかげで、授業が効率よく流れるようになりました。
- ・専門的な技術を持つ講師のおかげで、レベルの高い指導をすることができました。
- ・ボランティアの方々から、「子どもたちとの交流がとても楽しい。」「機会があったら、これからもボランティアとして参加したい。」という声が多数あがりました。

## 今後の課題と展望

- ・人材バンクを整備して、ボランティアを活用しやすいシステムを作りたいと考えています。
- ・学級担任からの要望を調整し、ボランティア活用の年間指導計画を作成することに取り組みたいと考えています。

# 地域で育むいわさきっ子

～学校とつながろう！～



深浦町学校支援地域本部 担当者：八木橋心一／いわさき小学校 コーディネーター：館山 幸子

西北地区

深浦町

## 学校や地域の概要

- ・学校紹介：「挨拶が素晴らしい」と訪問者の誰もがほめる、いわさき小学校の元気な児童たちは全部で86名。その親密さと活気は、小さな学校でありながら一つの大好きな家族を思わせます。
- ・地域紹介：世界遺産白神山地を東に、中ほどには鮎踊り鮭登る笹内川、西には夕陽で黄金に染まる日本海を有する岩崎は、自然豊かな地域です。地域の人たちは、自然と共に生き、先人の豊かな知恵と歴史を継承し、素朴で元気です。

## わが校のボランティア活動

- ・従来の活動：学校行事では「餅つき会」、授業では昔の遊び・郷土・野菜作りなどを指導するゲストティーチャー、他に環境整備、おはなし会の読み聞かせなど、さまざまな分野でPTAや地域の方々がボランティア活動に参加してきました。
- ・現在の活動：この9月からは、学校支援地域本部事業・学校支援ボランティアコーディネーターが配置されたことにより、従来のボランティア活動に加えて下校時の安全補助ボランティア、図書ボランティアなど、活動がさらに広がりつつあります。

## コーディネートの実際

### ・コーディネーターの工夫

今では地域に一つだけの小学校となりましたので、地域の方には「新しい小学校に入ってみましたか？」と声をかけるようにしています。餅は餅屋、知っている人・できる人には一肌脱いでもらえるようにお願いをしています。

### ・本校のコーディネートのポイントあるいは特徴

専門分野でネットワークを持っている人を探します。そのキーパーソンにお願いをして、学校に来てくれる方をコーディネートするようにしています。

## 担当者・コーディネーターから一言

地域と学校を結ぶ活動は時間のかかる仕事だと思いました。同時に地域、学校、保護者、子ども達と、関わった全ての人たちが喜びを得る、いわゆるWIN・WINの活動でもある

と思いました。

## わが校の主な活動

### ◇昼休みおはなし会 読み聞かせボランティア

いわさき小学校では毎週昼休みにおはなし会を実施しています。毎月2回第1・3木曜日にはボランティアによる読み聞かせ会が行われ、お昼休みの10分間に1～2人のボランティアが図書室に集まつた児童へ読み聞かせをします。

おはなし会では絵本の読み聞かせを中心に、紙芝居、ペーパーサークルなどが行われています。おはなし会の司会や会場の設置は小学校の図書委員会が行い、読み聞かせをボランティアが行うため、子どもたちと一緒に作り上げる楽しさがあります。飛び入りで子どもたちがお手伝いする時には特に一体感が楽しめます。

ボランティアの方の中には、仕事をしている方も多く、職場の昼休みを利用したり、平日にお休みをとった機会を利用して参加してくださる方もいます。



## 得られた成果

それまではつながりの薄かったボランティア個々の方々が、同じ活動を一緒にすることによって、親しさを感じたり親密さを深めたり輪が広がっていきます。「人と人とのつながり」が成果です。

読み聞かせは子どもたちをおはなしの世界へ導き、読書のきっかけづくりとなります。おはなし会は、一つの時間と空間とおはなしを参加者で共有するため、それが一体感と想像の世界を楽しめます。「参加者一人一人が来てよかったです」と感じること」が成果です。

## 今後の課題と展望

出てきた課題とその対策：ボランティア参加者の多くが保護者にとどまっていることが課題です。より多くの地域の方に声がけをして行くことが必要です。  
今後につなげたいこと：根付くまで長く続くことを願っています。



# 地域とともに創意工夫を

～ポプラのようなくましく～



板柳町板柳北小学校支援地域本部 担当者：小枝 秀博／板柳北小学校 コーディネーター：対馬 靖子

西北地区

板柳町

## 学校や地域の概要

- ・岩木山を校舎から眺めることができる、自然豊かな場所にある板柳北小学校。
- ・水田とりんご畑に囲まれた環境なので、各学年で田・畑等の活動授業がある一方、朝の読書推進で全国表彰も受けました。
- ・近隣には津軽りんご市場や工場、大型の郊外店などもあり、他学区にはない建物があるのも特徴です。

## わが校のボランティア活動

- ・ゲストティーチャー（絵手紙教室講師）
- ・ゲストティーチャー（親子レク講師）
- ・ゲストティーチャー（板柳音頭講師）
- ・ゲストティーチャー（相撲大会行司役）
- ・危険箇所安全指導
- ・運動部のコーチ
- ・花壇等の環境整備
- ・図書室ボランティア など

## コーディネートの実際

板柳北小学校では、まだまだ先生方からのボランティア依頼が少ないので、コーディネーターが図書ボランティア活動等を行うことにより、先生方に早く制度を理解してもらおうと試行錯誤している現状です。

また、板柳北小学校ではコーディネーターが配属される以前からボランティア活動が自主的に行われていたため、コーディネート無しでも活動が行われている場合が多いのも実情です。

## 担当者・コーディネーターから一言

板柳北小学校支援地域本部も2年目に突入し、少しづつ先生方と子どもたちに理解され始めました。残りの1年は地域住民の皆さんにより一層理解されるよう工夫していくきたいと思っています。

## わが校の主な活動

### ◇登校時の危険箇所安全指導

毎朝 7 時～7 時半頃、車の往来が激しい危険箇所で、ボランティアさんが安全指導を行ってくれています。

以前は、1 人で指導していたのですが、本年度からはボランティアさんがもう 1 人増え、もう一ヶ所別の危険箇所で指導してくれています。

安全指導を行いながら、朝の挨拶など子どもたちに声掛けも行っています。子どもたちだけでなく、この通学路を利用する地域の人々も、毎日立ち続けるボランティアさんに挨拶をするようになりました。

地域の防犯という点からも、このボランティア活動はとても重要ではないでしょうか。



## 得られた成果

寒い日も暑い日も、通学路に立ち続けて下さるボランティアさんに、感謝の気持ちを込めて手作りマフラーをプレゼントした子どもがいました。突然のプレゼントにボランティアさんも大変感激した様子で、学校宛てに感謝の手紙を送ってきて下さいました。

子どもたちと地域の人々との触れ合いが深まってきていると確信できたできごとです。

## 今後の課題と展望

今後はこれらのボランティア活動等の経験を活かし、学校と地域が支え合って子どもたちを育てるという環境になるよう、力を注いでいきたいと思います。

ちなみに、図書ボランティアに関しては、今後ボランティア募集の呼び掛けをし、ボランティアさんに活動をお願いできる態勢になるよう、図書担当の先生と検討している最中です。

# 学校支援ボランティア活動報告

～学校と地域が子どものために～



板柳町板柳中・南小学校支援地域本部 担当者：小枝 秀博／板柳中学校 コーディネーター：山口江美子

## 学校や地域の概要

### 学校紹介

- ・風土に根ざした人間の形成をわが町の根基とし、知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成することを教育目標とする板柳中学校。昭和40年に設立、現在生徒数は459名。

### 地域紹介

- ・板柳町は津軽の象徴岩木山が望め、りんごと米を中心とした農業が盛んな町です。

## わが校のボランティア活動

板柳中学校では、今年度から「学校支援地域本部事業」を開始しました。

今年6月の運動会、全校生徒による恒例の『板柳音頭』の指導を地域のボランティアの方に依頼したいと、体育の教員からお話をありました。毎年、体育の教員が指導を行っていましたが、地元の方からの指導が望ましいと、今回のボランティア活動決定となりました。

## コーディネートの実際

### 工夫したこと

- ・生徒数が459名と多いので、ボランティアの人数やスケジュールの工夫をしました。学年別で3日間かけて指導することで、指導する側も細かく指導ができ、生徒たちの習得につながったと思います。

### 本校のコーディネートのポイントあるいは特徴など

- ・ボランティア募集の際に『板柳音頭』の指導者を一人依頼し、その方にもう2名を紹介していただきました。

## 担当者・コーディネーターから一言

今回はボランティアさんの募集や連絡など、とてもスムーズにできたと思います。

また、教頭先生を始めとする学校側の細かい配慮をいただき、ボランティアが抵抗なく指導することができました。

## わが校の主な活動

### ◇板柳音頭指導の様子

6月の運動会に向けて、3名の地域ボランティアに、3日間にわたって学年ごとに指導していただきました。

昨年までは体育の教員が指導していましたが、地域ボランティアの方の指導は細かく分かりやすく、ていねいにしていただきました。

運動会本番では、ボランティアも生徒たちと一緒に踊りました。始めははずかしそうにしていた生徒たちですが、ボランティアの方と声を掛け合い、楽しそうに踊る姿がみられました。

当日は運動会を見に来ていた保護者の方も飛び入り参加するなど、今までとは違う触れ合いが感じられた運動会だったと思います。先生方や保護者の方たちからも、今年の板柳音頭はとても上手に踊っていたと好評で、大変喜んでいただきました。



## 得られた成果

ボランティアによる板柳音頭の指導により、生徒たちと地域の方が触れ合う良いきっかけになったと思います。

毎年指導にあたっていた先生方からも、「板柳音頭の細かい指導方法を再認識しました」などのコメントをいただきました。

また、地域のボランティアの方からは、「子供たちと触れ合うことができて楽しかった、本番の運動会に招待してもらい指導の成果をみることができて本当に良かった」とのコメントをいただきました。

ボランティア活動をとおし、地域と子供たち、そして学校が一体となり、一つの活動をやり遂げたことを大変うれしく思います。

## 今後の課題と展望

中学校では、当然のことながら受験生が毎年おり、教員や地域住民が子どもと向き合う時間を拡充していくことは現実問題として簡単なことではありませんが、イベントや環境整備を利用するなどして、地域の教育づくりにつなげていきたいと思います。